

## 柳 絞 り

秋田県平鹿郡平鹿町浅舞ではさまざまな技法を用いた木綿の絞り染めが行われていた。そのひとつに柳絞りがある。木綿の絞り染め産地として有名な愛知県の有松、鳴海で行われる同種の絞りに比べて浅舞のものは大らかで柔らかい感じが特徴である。

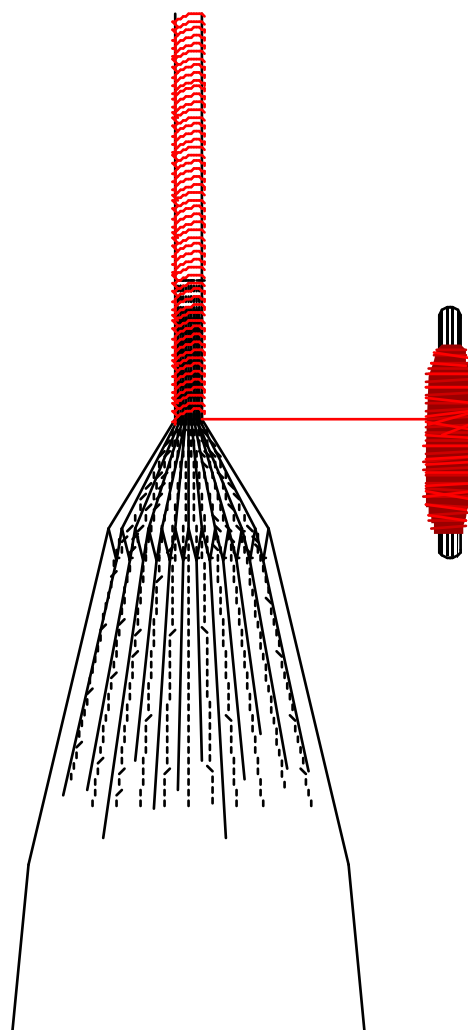
単純な柳絞りの他に、所々に括りを入れて模様の流れに変化を出す鹿又柳がある。当ワークショップでは、所々に入れる括りを花等のモチーフに変えたものも工夫している。



# 1) 柳絞りを絞る

柳絞りは、細かく襷を取った布を糸で巻き締めて絞る。

- ①布端を適当（1 cm前後）に襷を取って強く縛る。
- ②縛ったところを絞り台に固定して（専用の道具もあるが、イスや机の脚に大きなクリップで固定してもできる）二つかみほど離れたところで新たに襷をとり、引っ張って襷を整え、丈夫な糸で巻き締めていく。襷を取ったところを洗濯ばさみなどで挟んでおくと仕事がしやすい。
- ③襷を取ったところまで巻き締めたら、糸がゆるまないように糸管を脚で押さえるか、巻き終わりを丈夫なクリップで挟んで止める等の工夫をして、また二つかみほど離れたところに襷を取る。
- ④襷を取ったら、引っ張って襷を整えて、また糸で巻き締めていく。この繰り返しで最後まで巻き上げると、布は1本のロープのようになる。



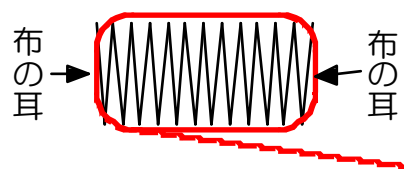
襷を取るときに常に同じ幅で、きちんと同じ側を畳んでいくと、模様は縦縞になる。あまりきちんと畳まず適当に畳んで括っていくと、多少「よろけ」の入った縦縞模様となる。

柳模様にするには、襷を取るときに、意識的に前とは逆になるように襷を取る。また、あまりきちんと同じ幅で畳まないようにする。

次に大事なのは、襷を取って畳んだ布の耳が外に出ないようにすることである。右の耳と左の耳を合わせて、全体が輪になるようにして糸を巻いていく。

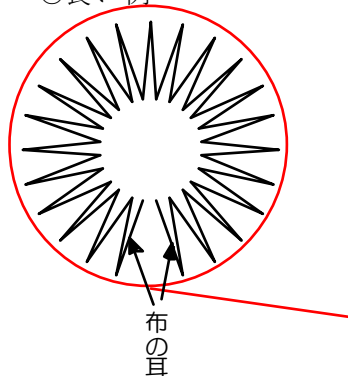
耳が外に出ていると、耳に近い部分が濃く染まってしまう。

×悪い例



この状態で糸を巻き締めていくと布の両耳の当たりが濃く染まってしまう。

○良い例



このように襷を取った布を輪にして、耳と耳を合わせて糸を巻いていくと、均一に染まる。

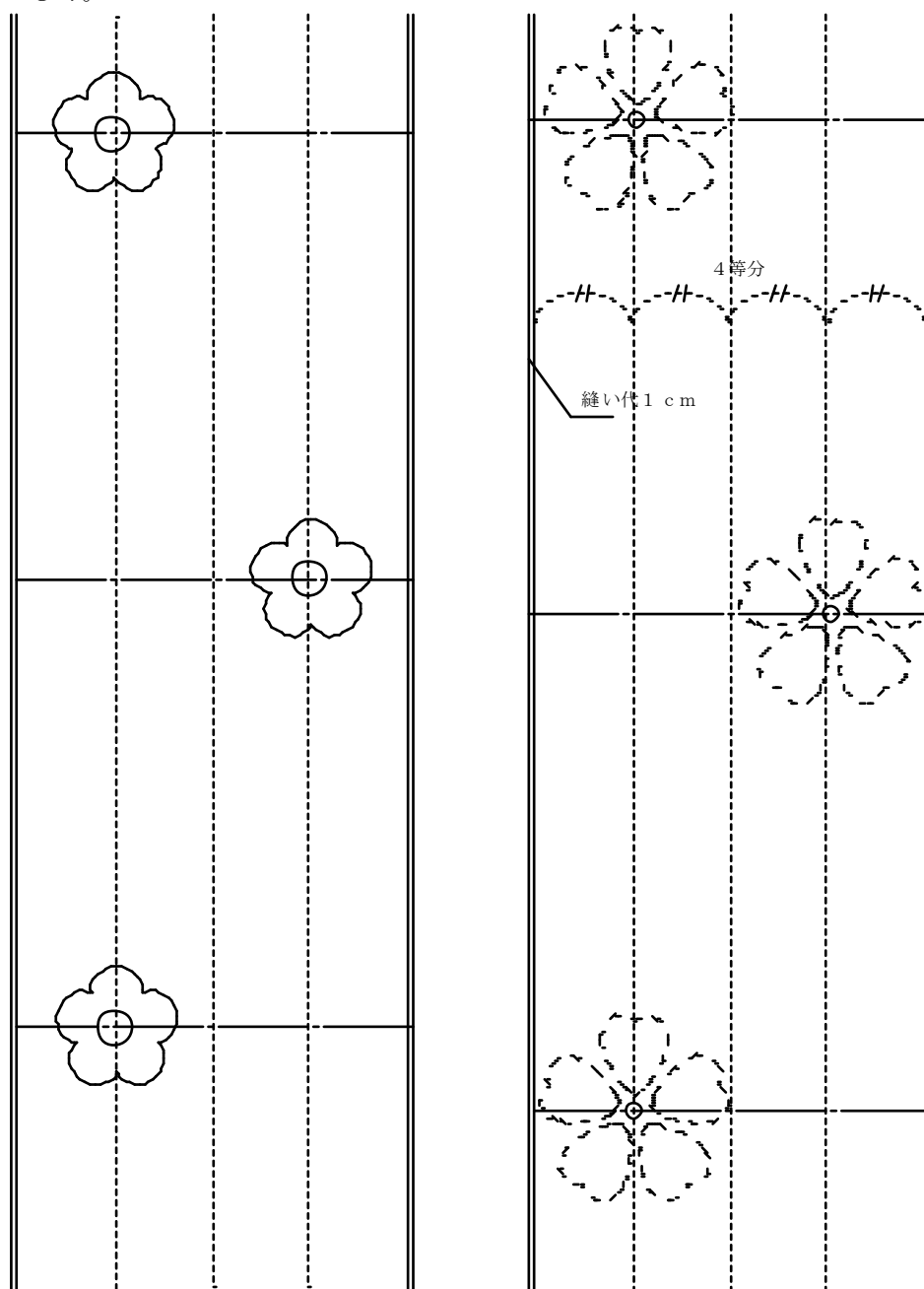
糸は5mmぐらいの間隔をあけて巻き付け、締めていく。隙間無く巻いてはいけない。  
糸はしっかり締めた方が模様のはっきりする。締めがゆるいと滲みが入るので、柔らかな感じになる。

青い部分を多くしたいときには、ロープを芯に入れて巻を太くすると良い。

柳模様の流れに変化をつけるために所々に括りを入れる場合は、その位置に気を配る必要がある。浴衣に仕立てたときに背中の中の中心が空いた感じになったり、詰まった感じになるのは模様のレイアウトに問題がある。模様の間隔は任意であるが、あまり付かない方が絞りやすい、少なくとも45cm以上は離れた方が良いだろう。左右の位置は、着尺の幅から縫い代を除き4等分したラインが基準となる。モチーフの中心が、左縁から4分の1のところにくるように配置し、次のモチーフは45cm下がって、右縁から4分の1のところを中心に、左右に振っていくと仕立てたときに均等に模様が配置される。

## 2) モチーフの入った柳絞りのレイアウト

模様の間隔は45cm～60cm程度。模様は小さい方が楽。単純に摘んで括っただけのものでも可。



モチーフを括ったり、巻き上げたりした後に、全体を巻き上げる。

